

平成27年度「小さな親切」運動全国表彰式

日時 ● 平成27年11月28日(土)
12:30～15:00

会場 ● 霞が関ビル35階 東海大学校友会館・阿蘇の間

主催 ● 公益社団法人「小さな親切」運動本部

後援 ● 内閣府・文部科学省・NHK

プログラム 司会・石井麻由子[NHKアナウンサー]

主催者あいさつ 代表・鈴木恒夫

来賓あいさつ 国家公安委員会委員長・河野太郎

表彰 内閣府大臣官房総務課管理室長・相川哲也

「小さな親切」運動推進功労者内閣官房長官賞

「小さな親切」運動大賞

「小さな親切」運動特別功労賞

「小さな親切」運動賞(団体の部・個人の部)

「小さな親切」実行章

第40回「小さな親切」作文コンクール

作文朗読(文部科学大臣賞)

第31回「小さな親切」はがきキャンペーン

はがきキャンペーン朗読(大賞 日本郵便賞)

耳と心で感じるリーディングドラマ

出演 ケッケコーポレーションの声優さん

閉会あいさつ 副代表・堀江正浩

例年以上に大盛況の 全国表彰式が 「小さな親切」運動に 示唆してくれたこと

平成27年11月28日。東京の霞が関ビルで平成27年度「小さな親切」運動全国表彰式が行われました。その様子と、式典から感じ取れた提言をレポートします。

北から南から『小さな親切』さんが大集合

その日、東京は快晴でこれ以上ないほどの小春日和。もともと、お集まりいただいた方々の中には、北海道や秋田県など大雪の中からいらっしやった方もいて、「東京はいいですね」と声をかけられました。こんなとき、申し訳ない気持ちにもなりますが、「小さな親切」運動が全国に広がっていることを改めて感じさせてくれます。

会場には270名が集まり、国家公安委員会の河野太郎委員長他、多くのご来賓が見守る中での式となりました。

今年の表彰式にはいくつかの新しい試みを用意していました。そのひとつが、開会前の時間を利用して本運動の趣旨を説明するスライド

ショーの上映でした。運動本部職員が自作した映像ですので拙い面もありましたが、来場者の方にはこの映像で「運動本部の全体像がわかりました」とも言っていました。

式典の最初は運動本部の鈴木恒夫代表の開会の言葉です。「小さな親切」八か条の第一番目、「朝夕のあいさつをかならずしましょう」を引用して、大きな声でのあいさつから始まりました。

そして、来賓代表として河野太郎国家公安委員長が「皆さんが今日の日のことを忘れずに、これからも率先して困った人に手を差し伸べてくだされたいなと思います」と述べられました。今回、警視庁城東警察署の藤森早和香巡査が、勤務中に行った献身的な看護によって「小さな親切」実行章を受けられるということもあり、河野国家公安委員長にご来臨いただきましたが、「小さな親切」への



内閣府大臣官房総務課管理室・相川室長(左)より豊田梓葉市支部事務局長に内閣官房長官賞が授けられた



全国表彰式は、 参加者が主役です



公益社団法人「小さな親切」運動本部



東京すげえ！ビル高い！
エレベーターいっぱいあった。
[男の子]

「毎年、ここで皆さんとお会いできることが楽しみ」と鈴木代表



はがき
キャンペーン
から

お店の人にお客さんから
「ありがとう」はおかしい？

はがきキャンペーンでは神奈川県
の米山茂さんの作品が大賞 日本
郵便賞を受賞されました。幼稚園
の子どもの姿にカルガモの隊
列を重ねあわせた作品ですが、あ
まりのかわいさに満場一致で大賞

になったのです。

米山さんの話です。

「鉄道関係の仕事をしておりまして、正直な
ところ人間のダメな面を見せられることも多
いのですが、この日は子どもたちの行いに救
われた気持ちでした。まだまだ日本は捨てた
もんじゃありません。その気持ちを米山さんは
作品の結びに「よっしゃー」と書いて表現し
ています。この作品は、後述する声優の難波
さんによる朗読で披露されました。
もうひとつ、気になる作品があります。千
葉県の清水愛美さんは友人との価値観のずれ

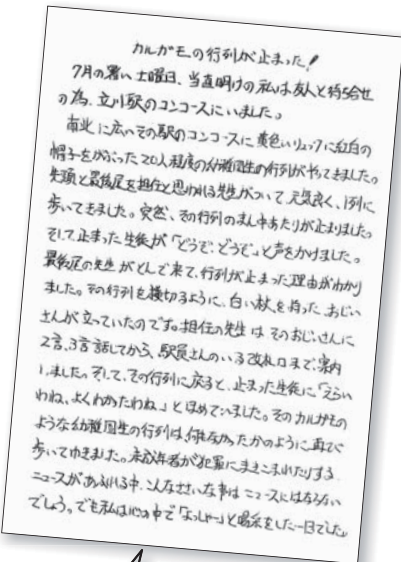
リーディング
ドラマ
から

子どもを社会で見るべき時代が
本格的に始まった

今、「小さな親切」は時代に合わせた活動が

大きなテーマになっています。その手法のひとつ

について書きました。飲
食店で料理が運ばれた時
「ありがとう」と言った清
水さんに対して、友人は
「こちらがお客さんだから、お礼をいうこ
とはないじゃない」と言ったのです。
似たような経験が皆さんにはありますか。
清水さんによれば、最近、そういう経験が多
いそうです。確かにお客とお店の関係は、金
銭を媒介とした関係です。しかし、社会はそ
れだけで成立するものではありません。もし
もそうなら、「親切」など存在しない世界に
なってしまう。それは心の交流も感動も
なく、日本の美風が消えてしまった世界です。
「小さな親切」の連鎖で安寧な社会を築くこ
とがこの運動の趣旨ですので、清水さんの作
品は重要な警鐘と考え、運動本部賞とさせて
いただきました。



リーディングドラマでは
作文の作者の心情をそこねないように演出しました。
たくさん子どもたちの生の反応が見られてよかった。
[ケッケコーポレーション代表取締役 難波圭一さん]

毎年、皆さんがんばりますねえ。
ここ来ると、自分はまだまだだだと思います。
[準備をお手伝いしてくれた東北のある事務局長]

うちの子がこんな賞をいただけて
感無量です。
今日から自慢の息子です。
[作文受賞者のお父様]

平成27年度「小さな親切」運動全国表彰式



内閣官房長官賞を受賞された皆様（写真左より池見さん、枝さん、堀江副代表、鈴木代表、田子さん、豊田さん）

作文
コンクール
から

言葉は利器にも、凶器にもなる

関心も深く、警察機構と市民の連携による治
安の強化という点からも期待していると話し
ていただきました。

続いて、日本のあちらこちらでこの運動を
支えてくださっている団体や個人の表彰が行
われました。その一覧は別掲（7頁、8頁）
のとおりですが、鈴木代表は「皆さんが無私
の精神で世のために活動されていて頭が下が

今年の作文コンクールは優秀な作品が多く
集まりました。内容も多彩で、審査時点でも
たくさん意見がでたほどです。

その中で、文部科学大臣賞を受賞したベル
ギーブラッセル日本人学校小学部6年の妹尾
葵子さんは、この日のために急遽帰国し作品
を朗読してくれました。

妹尾さんの作品は言葉もうまく通じないベ
ルギーで、初めてのピアノコンクールにチャレ
ンジした時のことを書いたものです。※詳細は
ホームページ(<http://www.kindness.jp>)をご覧ください。

緊張のあまり手が思うように動かなくなっ
た妹尾さんを救ったのは、外国人のスタッフ
がかけてくれた「クツ、カワイイネ」という
片言の日本語でした。この言葉で落ち着くこ
とができた妹尾さんは、普段通りにシヨパン

ります。表彰はせめてのもの恩返しにすぎま
せんが、こうしてお礼を述べる機会をいただ
いてありがたいと思っています」と述べていまし
た。

式典は、実行章の表彰、作文コンクール、
はがきキャンペーンの表彰と続いていきました。
ここから先は、その内容から読み取れる「小
さな親切」の課題に焦点を当てていきます。

の楽曲を弾き終え優秀賞を受賞したのです。
朗読を終えた妹尾さんに話を聞きました。

「あの経験は私を成長させてくれたと思います。
私も同じように、海外から来た人に親切にし
たいです」。

言葉は文明の最大の利器ですが、時には凶
器にもなりえます。作文コンクール全体を見
渡しても、言葉が人と人との関係を大きく変
えた事例がたいへん多く見られました。「小
さな親切」運動本部としても、言葉の大切さを
もう一度見直していきたいと考えています。

また、2020年には東京五輪があり、多
くの外国人が日本を訪れます。言葉の通じな
い相手にどのように接するべきか、妹尾さん
の作品はそんなことも示唆しているような気
がします。

例年以上に大盛況の
全国表彰式が
「小さな親切」運動に
示唆してくれたこと

「次の50年のための
基礎づくりを!」と堀江
副代表



来のバランス感覚につながると感じます。また、親にとっても外に相談することで解決策が見つかることもあるでしょう。悩みを内側にこめて、子どもと1対1で対峙するばかりでは、親子ともにストレスが溜まってしまいます。

蓮君のお母さんは、「ちょっとやりすぎたかなと心配しましたが、作文に書くくらいですから、しっかりと心に刻まれたんだと思います」と語っていました。

二つ目は、子どもの育成を社会で見守るという考え方です。現在の日本には15歳未満の子どもは1,633万人、人口の12・8%しかいません。 ※平成26年総務省統計局。

次の50年に向けてチャレンジを!

式典の最後は、運動本部堀江正浩副代表の言葉でお開きとなりました。

記念写真を撮影したり、声優さんたちのサインをもらったりしている子どもたちを堀江副代表は目を細めて見ながら言いました。

「私もこの運動に長く関わっていますが、その必要性はますます増えていると感じます。50年続いたことには意味が、そして必要性があるのです。社会は大きく変わりましたの

で、新しい手法を取り入れながら、次の50年のための基礎を急いで作る必要があるでしょう。私も皆さんといっしょに頑張っていきたいと思います」

声優さんのサイン会や、鈴木代表との写真撮影は後片付けの最中まで続きました。

誰の顔にも笑顔があつて、例年以上に盛り上がった表彰式となりました。

いやあ、
いいお天気で
よかった〜。
[ある職員]

今日はピアノ演奏より、緊張しました。
でも無事に朗読ができてよかったです。
[妹尾葵子さん]

ぼくが書いたものが読まれて
うれしかったけれど、
すごきどきどきした。
[藤田蓮君]



平成27年度「小さな親切」運動全国表彰式

大舞台を終えてほっとする裏方の
スタッフたち。全国からお手
伝いがやってきて心強い限り

例年以上に大盛況の
全国表彰式が
「小さな親切」運動に
示唆してくれたこと

「小さな」というのが
いいですね。
それならできかなと
思いました。
[あるお母様]

こんなにすごい表彰式とは思わなかったので
驚きましたけれど、
とても思い出に残る経験ができました。
[作文受賞者のお母様]

声優さんのがすごく良かった。
お話を読んでくれてありがとう。
[女の子]

こんなにいろいろな活動
してるんですか。
今まで知りませんでした。
[あるお父様]



声優さんのサイン会は後片付けの時間まで続いた



大原さんらの声の演技は大迫力

ルに寄せられた「歌とぼくとおとしより」「ぼくが、どろぼうになった日」の2作品。

※この模様はYoutubeの小さな親切チャンネル(<https://www.youtube.com/user/smallkindness1963>)をご覧ください。

「ぼくが、どろぼうになった日」というどきどきとするタイトルの作品は藤田蓮君が書きました。

蓮君は幼稚園の友達のをだまって持ち帰ってしまいます。それを知ったお母さんは、

つがエンターテイメント性の導入で、今回は声優さんたちによる「耳と心で感じるリーディングドラマ」を企画しました。

出演はケッケコーポレーションの声優の皆さん。これまでも紙芝居などで協力いただいていますのでご存じの方も多いでしょう。当日は難波圭一(「タッチ」の上杉和也の声でおなじみ)代表取締役を始めとして、「ドラえもん」ののび太君を演じている大原めぐみさんなど、5人の声優さんが、作文コンクールに寄せられた作品を生で演じてくれました。



はがきキャンペーンの運動本部賞を受賞した清水さん

近くの交番のおまわりさんに頼んでひと芝居打つことにしました。

警察に連れていかれた蓮君は、「牢屋に入れられてしまっ」と真つ青。おまわりさんは「怖がらなくてもいいよ。もうしないよね。じゃあ帰っていいよ」とやさしく声をかけます。数年後、小学生になった蓮君はつかまえずに許してくれたおまわりさんに「親切にしてくれてありがとう」という気持ちを込めて作文に書きました。

この作品から学ぶことが二つあります。一つ目は、子どものしつけは家の中だけではなく外に委ねる部分があってもいいのではないかと。核家族が増え、小さな子どもの身近な大人は、親と学校の先生程度になりました。人にはさまざまな価値観があります。そうした多様性を子どもに伝えることは、将